

教育課程

Educational System

主体性を持って「学び」を選択する。

青山学院大学への進学者は8割以上。受験勉強に偏ることなく学ぶことができるのが高等部の特徴です。

数多くの選択科目や総合的な探究の授業、大学教授による学問入門講座など、好奇心を刺激し、探究心が求めるままに選択できる学びの機会は豊富です。

多彩な選択科目から自らに必要な学びを掴み取る

本校は授業週5日制を実施しており、1日6時限(2022年度より木曜日のみ7時限)で50分単位の授業を行っています。「愛と奉仕の精神」「思考力・判断力・コミュニケーション能力」「他者と共に生きようとする姿勢」「グローバルな視野」をもつ人間の育成に努めることを目標にカリキュラムを作成しています。

2年次からは文・理の選択科目が置かれ、3年次ではカリキュラムの半分を選択科目が占めます。これにより、各自の関心のある科目をより深く学習でき、青山学院大学への内部進学はもちろんのこと、多様な進路選択にも対応できます。

土曜日には総合的な探究の時間の一環として、青山学院大学・専門職大学院の先生方による《学問入門講座》(⇒11・12ページ)を開講しており、進路選択に役立てています。

教科の枠を超えて深く学ぶ自由選択科目を新設

今回のカリキュラム改訂で新たに「自由選択科目」が設置されることになりました。自由選択科目は、学びたい生徒が自由に受講でき、自らの問題意識をベースに深く掘り下げて学ぶことができるように作られた授業です。中には、教科横断型のものも用意されています。

多様な目標を持つ仲間と同じホームルームで学ぶ

本校では文系・理系といったコース制は設けておらず、ホームルームには多様な進路志望のクラスメイトが共存しています。また、必修の英語の授業ではホームルームを習熟度別のクラスに分割し、学習効果を高めています。

カリキュラム

	教科・学年	1 年	2 年	3 年
01	聖書	聖書(1)	聖書(1)	聖書(1)
02				
03		現代の国語(3)	現代文総合Ⅰ(2)	現代文総合Ⅱ(2)
04	国語			
05		言語文化(2)	歴史総合(3)	政治・経済(3)
06				
07	地歴公民	地理総合(2)	公共(2)	
08				
09		数学Ⅰ(3)	数学Ⅱ(4)	3単位選択科目から3科目を選択(9) ^{注4}
10	数学			
11		数学A(2)	統計入門(1)	
12				
13	理科	生物基礎(2)	物理基礎(2)	
14				
15		体育(2)	体育(3)	体育(2)
16	保健体育			
17		保健(2)	英語コミュニケーションⅡ(3)	英語コミュニケーションⅢ(3)
18				
19	芸術	2単位選択科目から1科目を選択(2) ^{注1}	論理・表現Ⅱ(2)	論理・表現Ⅲ(2)
20				
21		英語コミュニケーションⅠ(3)	古典探究(Ⅰ)または化学基礎(Ⅱ)(3) ^{注2}	2単位選択科目から3科目を選択(6) ^{注5}
22	外国語			
23		論理・表現Ⅰ(2)		
24				
25	家庭	家庭基礎(2)	2単位選択科目から2科目を選択(4) ^{注3}	自由選択科目〔総合的な探究の時間〕(2)
26	情報	情報Ⅰ(2)		
27				
28				
29				
30				
31				
32				

注1 音楽Ⅰ、美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰ
注2 理科の必修科目に関しては、2年次までに3科目を履修するものとする。化学基礎を履修しなかった場合は地学基礎を履修するものとする。
注3 文学、数学B、化学基礎(a)、地学基礎、物理Ⅰ、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、工芸Ⅱ、書道Ⅱ、オーラルコミュニケーションA、リテラチャー、英語演習A、プログラミング入門
注4 古典探究(Ⅱ)、地理探究、日本史探究、世界史探究、数学Ⅲ、物理、化学、生物、選択音楽、選択美術、上級英語
注5 聖書特講、国語表現、国語特講A、国語特講B、日本史特講、世界史特講、現代史特講、マーケティング、地理特講、現代社会特講A、現代社会特講B、聴くこと・知ること・伝えること、数学C、数学基礎演習、数学総合演習、数学発展演習、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物総合、地学、環境科学、球技A、球技B、体育特講(ダンス)、音楽Ⅲ、美術平面、美術立体、工芸Ⅲ、書道Ⅲ、オーラルコミュニケーションB、メディア・イングリッシュ、リスニング・コンプリヘンション、英語演習B、食物基礎、被服基礎、ICT活用探究実践、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語

平和・共生論文

「平和と共生」教育の集大成

本校の平和・共生教育は、「平和な社会、他者と共生する社会」を実現するために、具体的な課題を見つけ、解決しようとする態度を養うことを目的としています。

平和・共生論文とは、任意の社会課題の一つ決め、問題の分析や解決へのアプローチについて研究する論文で、本校では、生徒全員が執筆します。論文執筆の技術はM.アイゼンバーグの「Big 6 Skills Model」をベースにアレンジされたレクチャー動画「6ステップ」を用いて三年間をかけて修得します。この論文の執筆は「総合的な探究の時間」の一部に位置づけられており、生徒はこの執筆経験を経て、生涯学び続けるために必要な態度と技術を養います。また、学年で10名の優秀論文に選出された生徒の論文は『平和・共生論文集』に全文が掲載されます。



論文発表会

70 期生 平和・共生論文 タイトル例

- 未来100年における廃棄物との共存 幸福×ゴミを紐解く
- 日本における男性差別 一性差別の被害者は女性だけかー
- 難民の隣人になるためにー日本人の宗教的深層意識と難民受け入れ低迷の関係性ー
- 日本における児童虐待の今を見つめる
- 保育士の労働環境からみる日本の保育課題ー待機児童解消と保育の質確保を両立させるためにー
- 女性の経済的活躍を目指してー変化する社会を生きる私たちの働き方ー
- 海洋プラスチック問題をリードするー廃プラスチックをアジア諸国に輸出してきた日本がすべきことー
- メディアの中のLGBTsー適切な表現とはー
- ホームレス問題の現状と自立支援ー孤立するホームレスを救うためにー
- 住民主体の地域活性化ー「みんなの学校プロジェクト」成功への道のりを辿ってー



平和・共生論文集

ICT教育

深い学びの実現と情報活用能力の育成

協働的な問題解決学習や探究的な学び・時間や空間の制約を超えた学びの深化のため、多様な教育活動を可能にし、より深い学びを実現するツールとしてICT機器を活用しています。

同時に、学習の基盤となる情報活用能力・情報社会における責任ある態度の育成を目指します。

ICT 教育推進の歴史	
-2018	校内無線LAN環境の整備
	全普通教室に電子黒板を設置
2019	G Suite for Education (旧称) を導入
	全校生徒にGoogleアカウントを発行
2020-21	1人1台の学習用端末導入(1年生)
	ICTステーション開設
	1人1台端末の環境の拡張(1、2年生)
2022	全校生徒1人1台環境

ICT 機器を用いた教育実践

授業

意見を同時に書き込みながら行うグループディスカッション、協働で作成した資料を用いたプレゼンテーション、クイズアプリを用いた学習成果の発表、自分の体の動きを端末で撮影・分析して改善に取り組む(体育)といった活動を実施しています。



学校生活

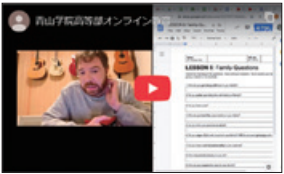
アンケートフォームを用いた意見収集や希望調査、プリントのオンライン配布、ビデオ会議ツールを利用した外部とのインタビューなど、学校生活全体でICT機器の利活用が進んでいます。



オンライン教育期間への対応

オンライン教育となった際には、学年やクラス・授業ごとに作成されたGoogle Classroomを通じて連絡事項や課題を配信しています。

授業ではオンライン課題や授業動画の一方的な配信だけでなく、リアルタイム双方向型の授業やアンケートフォームを用いた学習状況の確認などを実施し、互いにコミュニケーションを取りながら学習を進められるよう工夫しています。また授業以外でもビデオ会議ツールを利用してホームルーム活動や委員会活動を行っています。



ICT 教育の今後

ICT機器はあくまでもツールの一つであり、使うことが目的ではありません。「よりよい学びとより豊かなコミュニケーションのためのツールとして、使い方をよく考え、責任をもって利用していくこと」を忘れることなく、適切に機器を利用しながら、情報社会により良く参画していく態度を自ら学び、養っていくことができる教育に取り組んでいきます。

教科学習

幅広い視野をもち
人間としての基礎力をつける

聖書

青山学院の心を学ぶ

聖書の授業は、一教科の学びとして位置づけられていますが、学問的な領域にとどまらず、スクールモットーの「地の塩、世の光」が表す人間形成を目指し、この時代を生きていくことについて聖書から学びます。青山学院での学びの土台となる授業です。

外国語

「英語の青山」の名にふさわしい良き伝統

英語を学ぶことを通して、普遍的なものを追い求める心を養い、広く世界全体に目を向けて、国や文化の違いを超えて社会に貢献できる人を育てることを目指します。必修授業では習熟度別に授業を行い、各生徒が自分のレベルに合ったスピードで英語を学習できるように配慮しています。選択の授業では、英語を道具として使い映像作品を製作して発表する発信型の授業、長文読解や文法演習を行う授業、CNN やNews website を扱う授業など、生徒のニーズに合わせた幅広い種類の授業を用意しています。また、第二外国語として、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語を選択することもできます。

国語

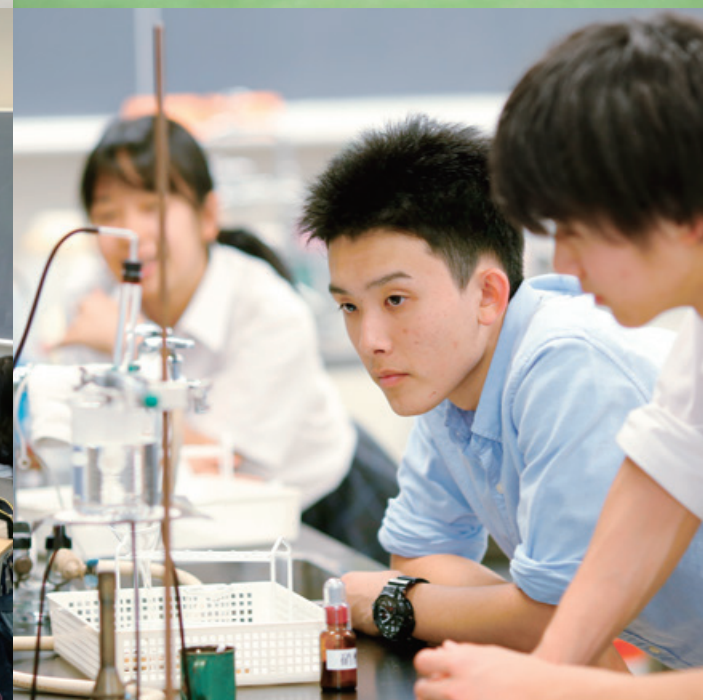
言葉を正しく理解し、自分を表現する力を養う

国語科の目標は「読解力を養い、表現力を身につける」ことにあります。高等部では近・現代の文学に加えて古典にも重点をおき、生徒一人ひとりの日本文化総体に対する関心が深まることを最終的な目標としています。

地歴・公民

身近なことから世界を広げる

①現代の複雑な世界が形成されてきた過程をさぐる歴史、
②地域的・空間的視野から自然や社会をとらえる地理、
③政治・経済などの社会的構造から物事をとらえる公民、という三つの大きな視野から社会現象を見ていきます。また、選択科目の特講では、グループ学習、レポート、討論、発表などを通じて、自ら調べて考えるなかで、主体的な学習能力、課題に対する分析力、論理的思考能力、表現力など、これからの社会を担う力を育てることを目標とします。



数学

数学は文化である

数学は、先人たちが長い時間と多大な労力を費やして発展させてきたものです。このような“文化”としての数学を学ぶことを念頭におきながら、現代文明に必要な不可欠な数学的素養を培います。2年生では、統計の基礎を体系的に学ぶ時間を設けます。授業を通して数学の基本的な技術を習得することにより、柔軟な論理的思考や創造性が生まれます。そして身につけた知識を駆使し、自ら問題解決ができる能力を育みます。

理科

冷静な分析と総合的な判断

現代社会は環境問題をはじめ多くの問題をかかえています。その責任が科学にあるように言われることもあります。はたしてそうでしょうか。冷静に問題を分析し、誰にでもわかる言葉で解決の道筋を模索することが問われているのではないのでしょうか。理科において一番大切なことは自然から学ぶことです。そのため実験や観察を重視し、できる限り多くの時間を割くようにしています。

保健体育

心身ともに強く成長することを願って

生涯体育を実践する基礎を培う高校時代。青年期に必要な運動量を確保し、生徒が主体となって協働的に取り組み、創意・工夫、協力して運動が行える種目を実施しています。保健では身近な事柄を教材にとりあげ、生涯において必要な保健的知識を習得し、実践的な健康・安全管理ができることを目標としています。

家庭科

生活全般を実践的に学ぶ

家庭科では、人間が生きていくために欠かせない、生活の基本的な知識および技術を学ぶだけでなく、現在の家庭を取り巻く諸問題にも目を向けさせます。そして、自立した生活者としての意識を高め、自分はどのような生活・人生を送りたいのかを考える機会を与え、自分の生活・人生をデザインする力を身につけることを目指します。

芸術

心を豊かに

音楽では、①知識を増やし・感性を磨き・技術を高める事によって、より「美しい音」を知り・感じ・表現する事、②そして、誠実にかつ真摯に音楽に向きあい取り組んでいく心と身体姿勢を学びます。美術では、基本的な知識や技術を土台にして自らの考えを造形的に表現することを学びます。また、鑑賞や発表を通して他者との相互理解を深めます。

情報

欲張りに探究する心、的確に判断する力を

次の3本柱を中心に、その知識と技術を身につけることを目標にしています。

- I. 情報処理の大切さと注意すべき点を心得る
- II. 情報処理の道具として、ハードウェアの仕組み、ソフトウェアの使い方を習得する
- III. IおよびIIを踏まえながら、1つのテーマに関する問題解決や探究学習を実践する

選択科目

上級英語

英語で考える「世界の現状」

今日世界が抱える問題(戦争、差別、貧困など)について学んでいます。これらの問題が互いにどのように結びつき、その背後にどのような原因があるのかを考えます。その過程において、生徒は各テーマに関連した約400の表現を学び、それらとつながりの深い言葉を自ら考えます。その上で話し合い、発表へと展開させていきます。高等部の中でもっともチャレンジングな授業のひとつです。ネイティブ教員が担当。

リスニング・コンプリヘンション

「生きた英語」を身につける

スピーチ、ニュース、ヒットソング、映画などのディクテーションを通して、文法、語法、発音、英語の正しい発話の仕方などを体系的に学んでいく授業です。歴史上の名スピーチを聴き取って暗唱し、それを講堂の舞台で発表してみたり、集大成のグループプロジェクトとして、映画のアフレコ制作に取り組んだりしています。アフレコでは班ごとに映画の台詞を聴き取って台本を起こし、映像に合わせて皆が役を演じながら、自然と生きた英語を身につけていきます。

オーラル・コミュニケーション B

成功のための「会話を越えた」ツール

何も持たずに1,200席のPS講堂のステージに立ち、スライドを用いて、堂々で行われる英語のプレゼンテーション。この授業では、簡単な物語紹介からフォーマルなディベートにいたるまで多岐に渡るスピーキングを学びます。発音や語彙の指導はもちろんのこと、週ごとのインターネット教材を駆使したサポートを徹底し、オリジナルな着想から表現までに必要となる技術を養います。ネイティブ教員が担当。

国語表現

「書く」ことで表現力・思考力を磨く

基本的な技術や表現の工夫を確認しながら、文章力の向上を目指します。互いの文章への批評や、ディベート形式の議論、グループ発表等も行い、意見や主張を理解し合う経験を重ねています。論理的文章だけでなく、自由な発想で「書く」ことを楽しむ課題もあり、表現力・論理的思考力をバランスよく身につけることを目指しています。年度末には編集委員をたてて記念文集を作成しています。

選択美術

自己探求のその先に

選択美術は3単位の選択科目です。1、2年次で学んだ内容を土台にして、自らの感じたことや考えたことを造形作品として出力し、発信するまでのプロセスを大切にします。油彩画や自由制作に長い時間をかけて悩みながら取り組むことで自分と向き合い、今まで気づかなかった一面を知る機会になればよいと考えています。また社会に目を向け、自ら作品のテーマを探る姿勢も重要です。そして美術室には同じように全力で表現に向かう仲間がいます。制作中に交わす何気ない意見交換や作品の鑑賞と対話を通して、他者とのコミュニケーションについても深く考えることのできる授業です。



現代社会特講 B

ディベートで学ぶ社会の諸問題

「憲法第9条を改正すべきか」、「核廃絶は可能か」、「過去の戦争とどう向き合うべきか」といった政治学における主要なテーマから、「ネット言論を規制すべきか」、「感染拡大防止のためのロックダウンに賛成か」といった時事的な問題まで、様々な課題を設定し、グループで話し合い、必要な資料を集め、作戦を練った上で、ディベートを行います。その過程で、自身の考えとは異なる意見に触れて広い視野を身につけること、論理的思考力を養うことなどをめざしています。

生物総合

「実物」に触れて学ぶ

生物総合では「実物を見る」ことを大事にして生物学の中でも系統分類と進化の分野について学びます。年間を通してほぼ毎週、解剖・観察や実験などを行っており、グループワークなども取り入れて生徒が主体的に学べる工夫をしています。解剖や観察では様々な生物(ヒドラ、プラナリア、ハマグリ、イカ、エビ、カニ、アジ、マウス、植物など)の形態や特徴を知ることにより生物同士が系統的にどのような関係にあるのか学んだり、環境にどのように適応してきたのかを予想したりすることができます。また、国立科学博物館見学など校外での実習も行っています。

世界史特講 A

過去の文脈を学び、未来をデザインする

世界史特講Aでは、テーマ史の探究学習を行います。前期のコーヒーの経済史では、青山学院高等部が支援している東ティモールのコーヒー農園の事例から、コーヒーのグローバルマーケットの歴史と課題、フェアトレードのあり方などについて議論します。後期の動物園の文化史では、古今東西の人と動物の関係を文化史の文脈から読み解き、未来の動物園のあり方を議論します。この単元では北海道の旭山動物園とZoomを用いた遠隔授業も実施します。

環境科学

「未来」を生きるための思索

身近な自然環境問題を科学的に調べ、未来に生かすことのできる知識を身につけます。講義の他、共通で行う実験、様々な環境問題(大気汚染物質の測定、食品添加物、温暖化、ゴミ問題、リサイクル、水の処理、放射性廃棄物、騒音、生物の多様性と絶滅、エネルギー問題など)の中から検証可能なテーマを選び、資料を集め、調査、実験、討論などを行い、最終的に論文にまとめ、研究発表します。

球技A/B ・ 体育特講(ダンス)

身体活動を通じて「表現力・リーダーシップ」を高める

球技A/Bでは、自分たちが選んだ種目をチームに分かれて分担し、計画・実行・評価まですべてを実践します。体育特講(ダンス)ではダンスを踊る・創るという活動を通じて互いの良さを認めあい、テーマ・振付・構成をすべて自分たちで考える発表会を行っています。「考える(計画)・課題発見・実践する(実践・解決)・評価する(自己評価)・探究する(考察)」事を自主的に行い、運動に対する理解を深めます。また、仲間との関わりを通して自らの経験や技術を人に伝えるという「表現力・リーダーシップ」を身につけることをめざしています。